

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500995		
法人名	有限会社 泰葉		
事業所名	グループホーム 泰葉 ユニットA		
所在地	佐世保市江迎町北平6-1		
自己評価作成日	平成28年10月14日	評価結果市町村受理日	平成29年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成28年11月29日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の生活を穏やかに過ごせるよう身心の状態の変化や傾聴に日々心がけ対応している。また、スタッフ会議のまとめを順番制にする事で、自己の意識を高め、統一したケアを行う。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、自然に恵まれた住宅地の中に位置している。町内会に加入し、ホーム便りを町内世帯に配付する等、地域に溶け込む努力を続けている。幼稚園児や小学生、ボランティアの訪問を受けており、開設して10年以上が経過し、正に地域に密着したホームであることが窺える。「家庭的な環境とケアの提供」を理念に掲げており、食事は利用者の食べたい献立を聞き取り、新鮮な食材を求め、毎日買い物に出掛けている。利用者の誕生日には、代表自ら腕を振るい、海鮮丼を作り喜ばれている。利用者はこれまでの生活習慣やペースを保ちながら、のんびりと過ごす様子が窺える。災害対策に対する意識が高く、毎月の訓練の他、特に水害に対しては消防署の他、婦人消防クラブ、住民の協力を得て実施しており、今年の大雨時には、避難勧告を受け、集会所への迅速な避難を行っている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500995		
法人名	有限会社 泰葉		
事業所名	グループホーム 泰葉 ユニットB		
所在地	佐世保市江迎町北平6-1		
自己評価作成日	平成28年10月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成28年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の生活を穏やかに過ごせるよう身心の状態の変化や傾聴に日々心がけ対応している。また、スタッフ会議のまとめを順番制にする事で、自己の意識を高め、統一したケアを行う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気作りにチームケアで取り組んでいる	理念は、利用者に家庭的な雰囲気の中で生活してほしいという思いを込めて作られている。ホームの入口に掛け軸として掲げており、職員は毎日確認している。利用者が居室やリビングで思い思いに過ごしている様子や新鮮な食材を使った食事作りなどに理念の具現化が窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム便り、行事等で地域との交流がある	町内会に加入し、ホーム便りを町内世帯へ配付している。幼稚園とは、双方向の交流が行われている。行事の際は、ボランティアが訪問し、楽しい時間を過ごしている。9月の水害避難訓練には、婦人消防クラブ員が参加しており、日頃から地域の一員として付き合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ意見交換をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	改善点、目標等を会議にて話し合いサービスに反映している	年6回、奇数月に規程の参加者で開催している。施設状況、行事、研修、ヒヤリハットの報告の他、問題点や課題について意見交換が行われている。家族の意見の吸い上げ方法についての提案や避難訓練の方法、避難場所について活発な意見が出ており、ホームの運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡事項は定期的に行っている	市の担当者とは、介護保険の申請手続きの際は、定期的に窓口に出向き、不明点を尋ねる関係である。利用者の訪問調査が必要な場合は、市の職員がホームを訪問し確認している。相談事は主に、FAXで行っている。市主催の研修には、職員が交代で参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアを徹底している、玄関は開放し自由に入出入り出来るよう配慮している	身体拘束についての外部研修に参加した職員が内部研修で報告し、具体例を示して職員の意識を高めている。声掛けなど気になる場合は、職員同士で注意し合っている。玄関の施錠は夜間のみで、外出する利用者には、さりげなく同行し、ホームの周りを散歩している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会への参加はあるが現時点においては活用する機会はない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解を得た上で契約し希望している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に面会時に対応し運営会議等を通じ発信している	家族が訪問した際は、気兼ねなく要望を言える関係を大切に、何か希望はないか尋ねている。遠方の家族は、電話で利用者の様子を知らせ要望等聴取している。特に利用者の体調に関しては、報告を欠かさず情報を共有している。年に1度の「親月会」を企画し、家族、利用者、職員が、共に食卓を囲みながら、歓談する場を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時、ミーティング、またはその都度意見があれば対応し運営に反映している	ケア会議には、職員全員が出席して意見を出している。また議事録は、持ち回り制で作成しており、職員の運営に参画する意識を高めている。また、職員の家庭環境にも配慮し、日頃から声掛けし、話を聞いている。研修参加の希望に沿っている他、資格取得に対しては手当を支給し、職員のキャリアアップに対する意欲を高めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを持って働けるような職場作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、講習会への参加を促し職員のスキルアップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に参加し意見交換、勉強会、また同業者との交流の場を持ちネットワーク作りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や困り事、要望等あれば迅速に対応する様努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の立場に立ち検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽を共有し出来ることの支援にとりくんでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベント時の家族参加を募り家族の協力を共に支えあっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも気軽に面会や見学に来て頂けるような雰囲気作りを心掛けている	普段から家族や知人の面会があり、家族と共に法事に出席する利用者もいる。職員は、近所のお地藏さんのお参りや行きつけの理美容院に出掛ける利用者に付き添っており、馴染みの関係が継続するよう支援している。仲の良い利用者同士、居室を訪問しあうこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立や引きこもり防止の為レクへの参加を促したり職員が間に入り良い関係が築けるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の場合は主治医、ソーシャルワーカーと連携を取り本人、家族の意思に添えるよう努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方らしく暮らせる様支援している	職員は、入浴時などリラックスした雰囲気の中で利用者の思いを聞き取ることが多い。食べたい物や家族と話したいという思いを汲み取っている。発語困難な利用者に対しては、ジェスチャーや筆談で対応している。朝、いつもより遅く起きた利用者に対しては、朝食の時間をずらすなど配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供、家族からの情報を基にその方を知る努力をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕のバイタルチェック、変化時にはミーティングを行い早急に対応している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスに基づき作成している	入居前に家庭を訪問し、家族から希望を聞き取り、短期3ヶ月、長期6ヶ月のプランを作成している。毎月、サービス担当者会議を開催し、利用者の状況を話し合っている。モニタリングを実施する度に、アセスメントを再度実施している。実行した支援項目は「ケアプラン実施表」にわかりやすく記録し、全職員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス担当者会議にて情報共有し介護計画に反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の変化に伴い柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防、地域住民との協力体制があり安全な生活が送れるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を把握しかかりつけ医の選択をしている	基本的には、入居前のかかりつけ医を尊重し、継続している。ホームとしても、複数の医療機関と提携し、受診を支援している。結果報告は、家族が付き添う場合も職員同行の場合も、互いに連絡し、「申し送り帳」に記録している。歯科の往診もあり、夜間急変時は医師との連携で適切な医療を受けることができる体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報を共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医に相談し本人、家族が安心できる様円滑に対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全職員が意識を統一し関係者と共に取り組んでいる	看取りに関する指針があり、入居時に説明している。段階を踏んで、家族の希望に沿って医師と話し合い、家族の同意を得ている。夜間の看護師不在や体制などで今年度も事例は無いが、医療行為を伴わない老衰による終末期の支援については、検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が実践力を身につけるよう訓練を定期的に行う必要がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難経験も何度かあり地域住民との協力体制が築けている	年2回、消防署立ち会いの災害訓練の他、自主避難訓練を毎月実施しており、日中及び夜間想定で行っている。婦人消防クラブや近隣住民に訓練に参加してもらい、消防署職員から訓練の改善点のアドバイスを受けている。これまでの訓練を活かし、今年度は大雨による避難勧告で実際に公民館に避難している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけ時の言葉使い、口調には分かり易く気持ちにゆとりを持って接する様注意している	管理者は、利用者に対する話し方について、尊厳を重んじ、決して馴れ馴れしくならないよう指導している。ホーム便り等に使用する写真の掲載については、書面で同意書を得ている。ただし、訪問者も利用する共同のトイレの壁に利用者の排泄一覧表を貼っている。また、居室内にポータブルトイレが日中そのまま置かれている。	排泄の自立支援は重要であるが、個人のプライバシーの確保と利用者の羞恥心に配慮した支援が最優先されることを期待したい。記録簿の保管場所及びポータブルトイレの保管方法について再度検討が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情の変化を考察し、会話の中で本人の思いが表現できるよう促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にそえない事もあるが傾聴しなるべくその人のペースに合わせる事を大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアークットやお化粧で気分転換を図っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、味見、下膳の手伝い等楽しみを持った食事の時間を共有している	毎日の食材の買い物は利用者が同行したり、野菜の下ごしらえを手伝うなどできることを一緒に行っている。きざみ食やミキサー食にも対応している。年に1度の「観月祭」では家族と共にホームの庭で食事会を催し、楽しいひと時を過ごしている。誕生月には代表が自ら作る海鮮丼でお祝いするなど、食事が楽しみとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	きざみ、とろみ食等工夫し対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアで清潔保持している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎に誘導し支援している	排泄チェックシートを記録し、利用者それぞれのリズムを把握し、早めの誘導を行っている。日中は、トイレでの排泄を原則として支援しているが、利用者によっては、夜のみポータブルトイレを使用しているケースもある。病院を退院後、おむつからリハビリパンツへと改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをし、飲食物の工夫や系運動などでスムーズな排便を促す等便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日以外の清拭と足浴にて清潔保持、皮膚観察に努め必要あればその都度対応している	基本的には、入浴日は週2日と設定しているが、決められた曜日以外でも入浴ができるよう柔軟に対応している。入浴剤や入浴後の保湿クリームで乾燥にも配慮している。入浴日以外は、毎日清拭を行っている。冬は円になって楽しい雰囲気の中、足浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のペースで安眠出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬管理し症状変化の際には主治医に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	美容院、カラオケ、買い物、パチンコ、散歩等で気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩、買い物支援等家族との協力の基支援している	職員は、利用者と散歩に出掛けたり、食材の買い出しに近くのスーパーへ出掛けることもある。病院受診の帰りに、菓子等の買い物に行く他、季節によってコスモスなどの見物にドライブしたり、近隣の寺に「蘭玉祭り」の見学に行く等、戸外に出掛ける機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物することの喜びとお金を持つことの安心感を感じて頂く為自らお金を使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話をしたり関係が途絶えぬよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良いホールで日向ぼっこをしたり音楽、テレビ鑑賞とリラックスできる空間作りの工夫をしている	明るい日差しが入るリビングで新聞を読んだり、ソファでテレビ鑑賞するなど、本人のペースで寛いでいる。手作りの押し絵が貼ってあり、季節感を採り入れる配慮がある。掃除や換気は毎朝、職員が行い清潔で、食事を作る音や匂いから日常の家庭的な雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内のテーブルの他ソファや長椅子等設置している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、調度品や慣れ親しんだものを持ち込んで頂き居心地良く過ごせる様な工夫をしている	自宅から馴染みの家具や小物の愛用品を持参し、仏壇やマリア像、家族の写真など思い思いに飾ってあり、その人らしい居室となっている。部屋の一部は畳敷になっており、テレビを観たり、横になったり好きなように過ごすことができる。掃除や換気、室温管理は毎朝、職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はほとんどがフローリングの為転倒のリスクに備え見守りを重視している、また、居室内の床はマットを敷く等している		